

拠点：鳥取・倉吉 知の市場

## 動物臨床医学事例研究

連携機関：動物臨床医学研究所

所属名称・発表者氏名：

動物臨床医学研究所

理事長 山根義久

### 1. 機関の紹介と教育活動の趣旨：

公益財団法人動物臨床医学研究所の設立の目的は“獣医学に関する臨床的研究を行い、併せて獣医療技術の向上を図るための教育と知識の普及及び情報提供を行うことにより、動物臨床医学の向上を図るとともに、人と動物の共生の探求及び動物愛護思想の啓発普及事業を行い、もって獣医学術の発展と社会の福祉の向上に寄与する”ことです。

現在の公益財団法人動物臨床医学研究所の前身である小動物臨床研究所が設立されたのが1981年(昭和56年)、その後1991年(平成3年)には鳥取県認可の財団法人鳥取県動物臨床医学研究所となり、さらにその20年後の2011年(平成23年)4月より公益法人制度改革により内閣府認可の現在の公益財団法人動物臨床医学研究所に移行し新たなスタートをきりました。

知の市場の開講期間・連携機関として活動しております「合同カンファレンス」は、1971年(昭和46年)より有志の開業医が月1回集まり、原点であるひとつひとつの症例を大事に検証し、そのありようを検討してきたもので、当団体のすべては合同カンファレンスから始まったといっても過言ではありません。

近年では、動物医療の中でも伴侶動物医療の発展は目を見張るものがあります。しかし、急速な発展の中にはひずみが発生しているのも事実です。

今後も、合同カンファレンスを通じて、ベテランと若手の獣医療従事者の情報交換の場、また、各病院の情報交換の場として日々の診療に役立つ情報を共有できるよう開催を続け、さらなる充実及び発展を図り、もって獣医学術の向上に努めて参ります。

## 2. 2014 年度開講実績

前期(15 講義:2 単位):4 日間(一部を除き 1 日 4 講義)開講する。

下記のとおり基礎から応用までの教育講演と、症例検討(外科的疾患・内科的疾患)で構成して行う。

### <講義内容>

#### •2014.4.27

教育講演:眼科「白内障手術の症例選択と注意点」

概要:犬の白内障手術希望例に対して手術実施例は、半数程度かもしれない。手術除外の理由として、術後視覚回復が期待できない、術後併発症リスクなど、私の施設における判断基準を整理してみた。一方、薬物治療あるいは放置の場合も併発症リスクを伴う。犬の白内障治療を検証する。

講師:山形静夫(山形動物病院)

症例検討(1):外科的・内科的疾患の検討

#### •2014.5.18

教育講演:麻酔「麻酔プロトコールと麻酔薬 第 1 部」

「麻酔プロトコールと麻酔薬 第 2 部」

概要:麻酔に関わる薬剤は、鎮静剤やオピオイド、注射麻酔薬、吸入麻酔薬など多種である。これらを他剤併用することは副作用の軽減だけでなく、相乗効果による十分な鎮静や疼痛緩和を得る。多剤併用のバランスのとれた麻酔プロトコールを行う中で必要となる、各種麻酔薬の特性やその応用について解説する。

講師:北尾貴史(動物メディカルセンター)

症例検討(2):外科的・内科的疾患の検討

#### •2014.7.27

教育講演:血液「免疫介在性血球減少症の治療 第 1 部」

「免疫介在性血球減少症の治療 第 2 部」

概要:免疫介在性血球減少症はしばしば遭遇する。特に免疫介在性溶血性貧血(IMHA)や免疫介在性血小板減少症(IMTP)は頻度が高い疾患である。これら治療はプレドニゾロンによる免疫抑制療法が第 1 選択として行われるが、重症の場合や難治性、再発性の場合には他の治療法も検討する必要がある。そこで今回はさまざまな免疫抑制剤の使い方について解説する。

講師:下田哲也(山陽動物医療センター)

症例検討(3):外科的・内科的疾患の検討

#### •2014.8.24

教育講演:整形外科「良くある整形外科手術に手を出すにあたって! 第 1 部」

「良くある整形外科手術に手を出すにあたって! 第 2 部」

概要:一般診療でよく遭遇する]または「手を出したくなる」整形外科手術(橈尺骨骨折・骨頭切除・骨盤骨折・脛骨粗面離断など)を中心に失敗しないための「コツ」と「症例選択のポイント」を解説する。

講師:櫻田 晃(さくらだ動物病院)

症例検討(4):外科的・内科的疾患の検討

**後 期(15 講義:2 単位):**5 日間(1 日 3 講義)開講する。

下記のとおり基礎から応用までの教育講演と、症例検討(外科的疾患・内科的疾患)で構成して行う。

<講義内容>

•2014.9.21

教育講演:消化器「肝外胆道系疾患の診断と治療」

概要:小動物における肝外胆道系疾患は、比較的稀な疾患とされているが、超音波診断装置の普及もあって近年遭遇する機会は増えている。

肝外胆道系疾患の中で、胆嚢炎、胆石症、胆嚢粘液嚢腫、肝外胆管閉塞などを中心に診断法と治療法を解説する。

講師:小出和欣(小出動物病院)

症例検討(1):外科的・内科的疾患の検討

•2014.10.26

教育講演:神経「CT および MRI 検査を用いた脊髄疾患の診断と予後判定」

概要:現在では小動物における神経疾患の診断において、CT および MRI は一般的な検査法となっている。また最近では、予後判定を含めた診断の重要性が指摘されている。今回、CT および MRI を用いた脊髄疾患の予後判定に関して、我々のデータと既知の論文とを比較して解説する。

講師:柄 武志(鳥取大学)

症例検討(2):外科的・内科的疾患の検討

•2015.1.25

教育講演:循環器「心検査のポイント(画像検査を中心に)」

概要:心検査を行う上で、それぞれの心疾患において注意して観察するポイントがある。

心疾患の診断する上でのポイントを、心疾患別に胸部 X 線検査ならびに心エコー検査などの画像検査を中心に解説する。

講師:山根 剛(動物臨床医学研究所)

症例検討(3):外科的・内科的疾患の検討

•2015.2.22

教育講演:循環器「心臓を中心とした胸部レントゲンの読み方」

概要:心不全などを来すと心拡大が見られるようになる。VHS や CTR の測定方法や、各疾患における心臓の基本的なレントゲンの読み方を解説する

講師:高島一昭(動物臨床医学研究所)

症例検討(4):外科的・内科的疾患の検討

•2015.3.29

教育講演:エキゾチックペット「ウサギの緊急疾患／胃拡張症について 内科治療」

概要:ウサギの胃拡張症は、臨床現場において頻発する緊急疾患であり、内科的に維持するのか、即座に外科治療に踏み切るのか常に悩まされる疾患である。本テーマでは内科治療に重点をおいて解説する。

講師:加藤 郁(加藤どうぶつ病院)

症例検討(5):外科的・内科的疾患の検討

### 3. これまでの経緯を踏まえて問題点や今後の課題

参加者数に対し、小レポートの提出者数が少ない。以前は、提出率を上げるため、小レポート提出者を出席とみなし、成績評価基準に反映させる方法で行っていた。しかしその場合、出席点が足らず、履修放棄判定となってしまう、参加者のモチベーションが下がるため、現状は小レポートの提出に関わらず、出席することにより出席点にカウントしている。

今後は、参加者にその場で小レポートを記入する時間を設けるなどして、提出率向上に努める。

また、開催地が鳥取であるため、冬の参加者(後期)が少なくなる傾向にある。車での参加が多いため、致し方ない問題点と言える。